

イーストスプリング・ インド公益インフラ債券ファンド (毎月決算型) / (年2回決算型)

追加型投信 / 海外 / 債券

(毎月決算型)

第4期末(2015年7月10日)	
基準価額	10,341円
純資産総額	19,283百万円
第1期～第4期 (2015年2月10日～2015年7月10日)	
騰落率	4.8%
分配金合計	135円

(年2回決算型)

第1期末(2015年7月10日)	
基準価額	10,232円
純資産総額	5,933百万円
(2015年4月10日～2015年7月10日)	
騰落率	2.3%
分配金合計	0円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

< 閲覧方法 >

右記[お問い合わせ先]ホームページアドレスにアクセス⇒上部「運用状況」のタブを選択⇒「運用状況一覧」ページを表示⇒当ファンド記載の中にある「運用報告書(全体版)」を選択

(毎月決算型)

第1期(決算日2015年4月10日) 第3期(決算日2015年6月10日)
第2期(決算日2015年5月11日) 第4期(決算日2015年7月10日)
作成対象期間(2015年2月10日～2015年7月10日)

(年2回決算型)

第1期(決算日2015年7月10日)
作成対象期間(2015年4月10日～2015年7月10日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型) / (年2回決算型)」は、2015年7月10日に決算を行いました。

当ファンドは、主としてインドの公益およびインフラ関連の債券に実質的に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社
[お問い合わせ先]

電話番号: 03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

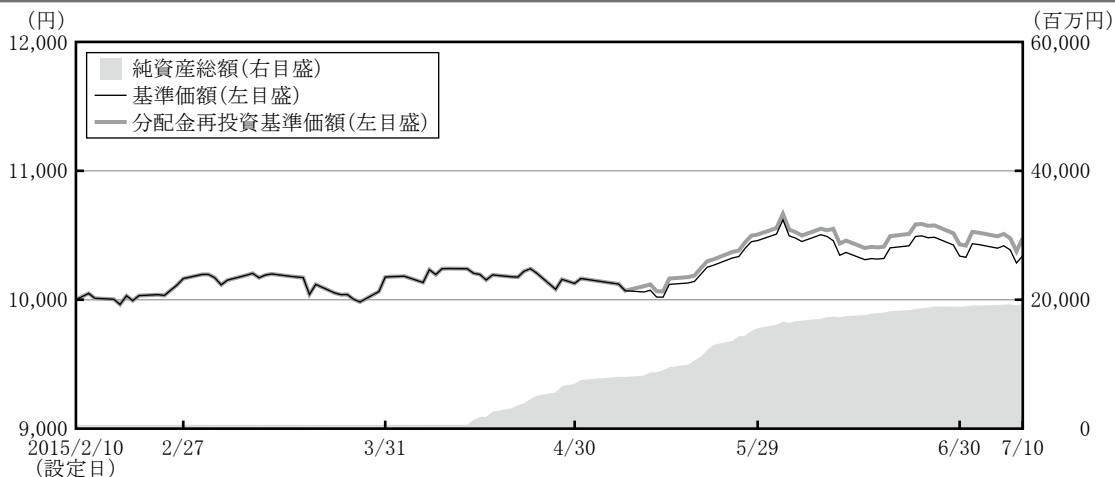
ホームページアドレス: <http://www.eastspring.co.jp/>
〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

運用経過

(毎月決算型)

当作成期中の基準価額等の推移について(第1期～第4期:2015年2月10日から2015年7月10日まで)



設定日	10,000円
第4期末	10,341円 (既払分配金135円)
騰落率	4.8% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 設定日の基準価額および純資産総額は、当初元本を用いています。

基準価額の主な変動要因

2015年4月末以降、インド債券市場の変動性が高まる中で利回りがやや上昇(債券価格は下落)したことが基準価額の下落要因となる一方、債券のクーポン収入や為替がインドルピー高円安となったことなどが基準価額の上昇要因となりました。

1万口当たりの費用明細

項目	第1期～第4期 2015/2/10 ～2015/7/10		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	71円	0.688%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 作成期間の平均基準価額は、10,252円です。
(投信会社)	(34)	(0.334)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(35)	(0.337)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.018)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	10	0.100	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.012)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(9)	(0.088)	外国人投資家に対する国債投資枠を取得するための入札費用等
合計	81	0.788	

(注1) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様が利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

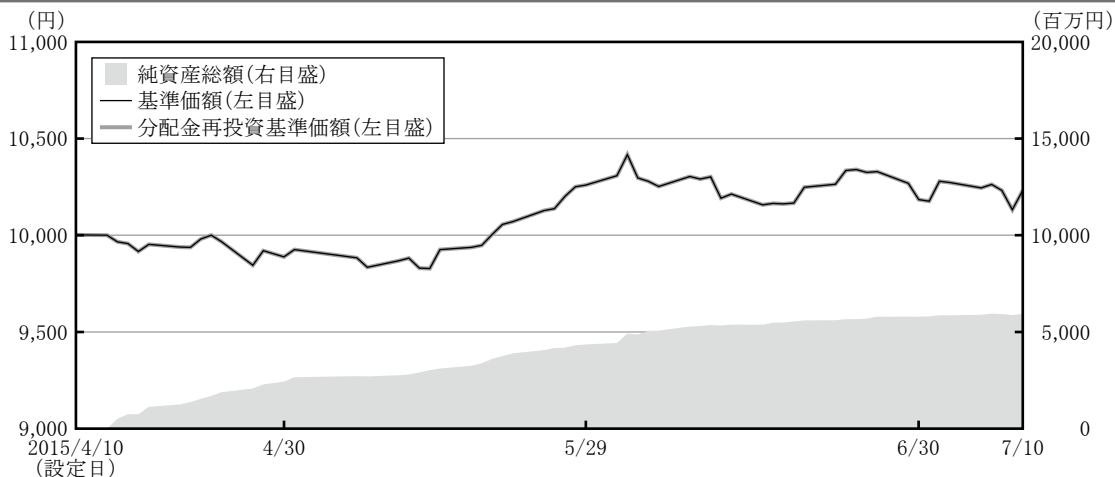
		2015/2/10 設定日	2015/7/10 決算日
基準価額	(円)	10,000	10,341
期間分配金合計(税込み)	(円)	—	135
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	4.8
純資産総額	(百万円)	586	19,283

(注) 設定日の基準価額および純資産総額は、当初元本を用いています。

運用経過

(年2回決算型)

当期中の基準価額等の推移について(第1期:2015年4月10日から2015年7月10日まで)



設定日	10,000円
第1期末	10,232円 (既払分配金0円)
騰落率	2.3% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 最初の分配金が出るまでの期間においては、基準価額を示す折れ線と分配金再投資基準価額を示す折れ線は重なって表示されます。

(注4) 設定日の基準価額および純資産総額は、当初元本を用いています。

基準価額の主な変動要因

2015年4月末以降、インド債券市場の変動性が高まる中で利回りがやや上昇(債券価格は下落)したことが基準価額の下落要因となる一方、債券のクーポン収入などが基準価額の上昇要因となりました。

1万口当たりの費用明細

項目	当期 2015/4/10 ～2015/7/10		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	42円	0.418%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は、10,110円です。
(投信会社)	(20)	(0.205)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(21)	(0.203)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.011)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	6	0.059	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.004)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(6)	(0.055)	外国人投資家に対する国債投資枠を取得するための入札費用等
合計	48	0.477	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様が利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 最初の分配金が出るまでの期間においては、基準価額を示す折れ線と分配金再投資基準価額を示す折れ線は重なって表示されます。

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

		2015/4/10 設定日	2015/7/10 決算日
基準価額	(円)	10,000	10,232
期間分配金合計(税込み)	(円)	—	0
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	2.3
純資産総額	(百万円)	1	5,933

(注) 設定日の基準価額および純資産総額は、当初元本を用いています。

投資環境について

(毎月決算型)

○海外債券市況

インド債券市場では、2015年3月から4月下旬にかけて、インド準備銀行(中央銀行、RBI)の予想外の緊急利下げや、大手格付会社によるインドの政府債務格付け見通しの引上げが好感される一方、原油価格の上昇が嫌気されて10年国債利回りは小動きとなり、相対的に格付けが高い社債の国債に対する利回りスプレッドも小動きとなりました。4月末以降、欧米債券市場の大幅下落を受けてインド債券市場も連れ安となりました(利回りは上昇)。また、外国人投資家に対する最低代替税(MAT)の遡及的な徴収を巡る不透明感なども投資家心理の重石となりました。しかし、5月初めにインド政府がMAT問題に関して対策を講じると、買戻しが優勢となりました。6月2日にRBIは利下げを行いました。既に債券市場では織り込み済みであり、RBIの声明ではモンスーン期の降雨量が平年を下回り食品価格が上昇するリスクが挙げられていたことなどから、追加緩和期待が後退して売りが優勢となりました。その後は降雨量の増加に伴う物価上昇懸念の後退やギリシャの債務問題の動向を材料に、期末にかけて一進一退の動きとなりました。

○為替市況

インドルピーは、2015年2月から4月前半まで対米ドルで比較的小幅な動きとなりましたが、その後遡及的な税徴収の可能性に対する警戒感などを背景に外国人投資家の資金流出が起こったことなどから5月初めにかけて下落しました。対円では、円が対米ドルで大きく下落したことから上昇しました。

(年2回決算型)

○海外債券市況

インド債券市場では、期初から2015年4月下旬にかけて、10年国債利回りは小動きとなり、相対的に格付けが高い社債の国債に対する利回りスプレッドも小動きとなりました。4月末以降、欧米債券市場の大幅下落を受けてインド債券市場も連れ安となりました(利回りは上昇)。また、外国人投資家に対する最低代替税(MAT)の遡及的な徴収を巡る不透明感なども投資家心理の重石となりました。しかし、5月初めにインド政府がMAT問題に関して対策を講じると、買戻しが優勢となりました。6月2日にRBIが利下げを行いました。既に債券市場では織り込み済みであり、RBIの声明ではモンスーン期の降雨量が平年を下回り食料価格が上昇するリスクが挙げられていたことなどから、追加緩和期待が後退して売りが優勢となりました。その後は降雨量の増加に伴う物価上昇懸念の後退やギリシャの債務問題の動向を材料に、期末にかけて一進一退の動きとなりました。

○為替市況

インドルピーは、2015年4月後半から5月初めにかけて遡及的な税徴収の可能性に対する警戒感などを背景に外国人投資家の資金流出が起こったことなどから対米ドルで下落しました。対円では、円が対米ドルで下落したものの小幅に下落となりました。

ポートフォリオについて

○イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)

当ファンドは、イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券への投資を通じて主としてインドの公益およびインフラ関連の債券に投資しました。

○イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド

主としてインドの公益およびインフラ関連の債券に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指した運用を行いました。マクロ経済分析および金利分析に加え、個別発行体に対するクレジット調査に基づく銘柄選択により、ポートフォリオの構築を行いました。ファンド設定時から2015年3月後半までは米ドル建て債券に投資を行いました。その後、3月下旬のインド現地における外国ポートフォリオ投資家(FPI)制度の資格取得に伴い、ルピー建て債券への入替えを行いました。継続的な資金流入が続く中、電力・公益セクターや銀行セクターなどを中心に、利回りの面で魅力的な社債の買付けを行いました。また、流動性などを考慮し、インド国債の組入れも行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークを設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保金の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(毎月決算型)

分配原資の内訳

(1万口当たり、税引前)

項目	第1期	第2期	第3期	第4期
	2015年2月10日 ～2015年4月10日	2015年4月11日 ～2015年5月11日	2015年5月12日 ～2015年6月10日	2015年6月11日 ～2015年7月10日
当期分配金 (円)	—	45	45	45
(対基準価額比率) (%)	—	0.445	0.428	0.433
当期の収益 (円)	—	19	45	41
当期の収益以外 (円)	—	25	—	3
翌期繰越分配対象額 (円)	241	229	488	489

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

(年2回決算型)

分配原資の内訳

(1万円当たり、税引前)

項目	第1期	
	2015年4月10日 ～2015年7月10日	
当期分配金 (円)		—
(対基準価額比率) (%)		—
当期の収益 (円)		—
当期の収益以外 (円)		—
翌期繰越分配対象額 (円)		231

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

○イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)

引き続きイーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券を高位に組入れることにより、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。

○イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド

2015年度は財政赤字を対国内総生産(GDP)比で3.9%とする目標が掲げられていることから、政府による拡大的な財政政策には限界があり、金融政策に景気支援の役割が期待されています。インド気象庁の事前予測に反して、モンスーン期入り後は平年を上回る降雨量を観測し良好な出だしとなったことにより、食品価格の上昇が抑えられ、商品市況が落ち着いていることなどから、今年度中に追加利下げが行われる余地はあると見えています。安全性や流動性を重視しつつ、機動的なデュレーション管理と個別発行体に対するクレジット調査に基づく銘柄選択により、収益の最大化を目指して運用を行って参ります。

お知らせ

該当事項はありません。

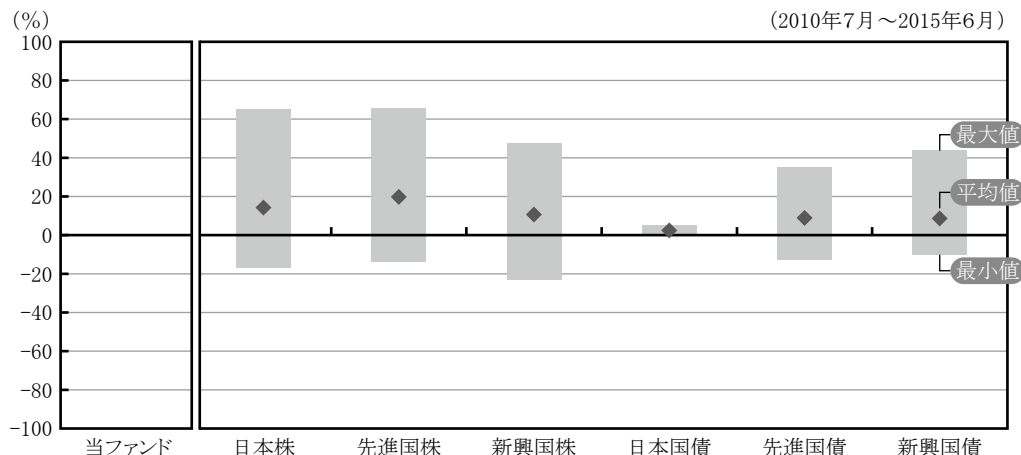
当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	(毎月決算型) 平成27年2月10日から平成37年1月10日まで (年2回決算型) 平成27年4月10日から平成37年1月10日まで	
運用方針	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてインドの公益およびインフラ関連の債券(以下「公益インフラ債券」)に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド (毎月決算型) / (年2回決算型)	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	インドの公益インフラ債券を主要投資対象とします。
投資制限	イーストスプリング・インド公益インフラ債券ファンド (毎月決算型) / (年2回決算型)	<ul style="list-style-type: none"> ・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 ・株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
	イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 ・株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	(毎月決算型) 原則として毎月10日(休業日の場合は翌営業日) (年2回決算型) 原則として、毎年1月10日および7月10日(休業日の場合は翌営業日)各ファンドの毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(毎月決算型)



(%)	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-	14.2	19.7	10.6	2.4	8.9	8.6
最大値	-	65.0	65.6	47.3	4.5	34.9	43.7
最小値	-	-17.0	-13.7	-22.9	0.4	-12.7	-10.1

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2010年7月から2015年6月の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率は設定から1年を経過していないため、該当事項はありません。

<各資産クラスの指数>

日本株: 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

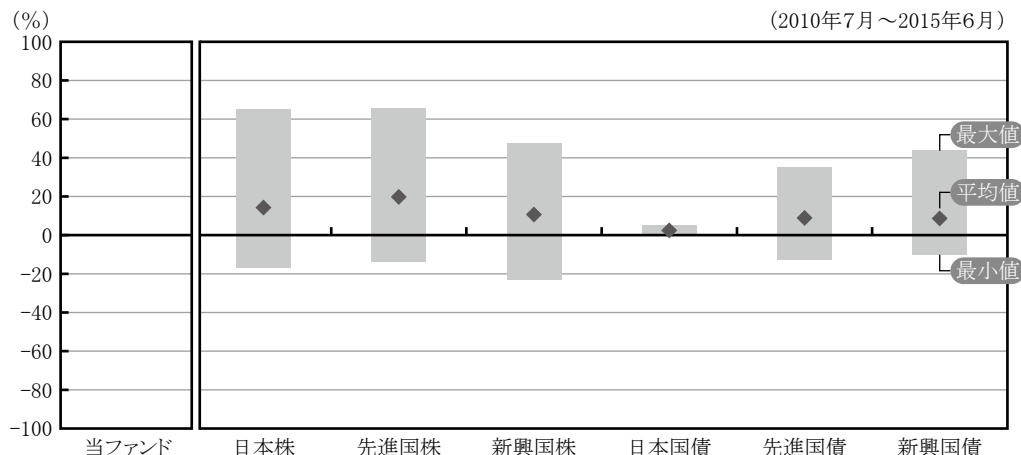
新興国債: JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(年2回決算型)



(%)	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	-	14.2	19.7	10.6	2.4	8.9	8.6
最大値	-	65.0	65.6	47.3	4.5	34.9	43.7
最小値	-	-17.0	-13.7	-22.9	0.4	-12.7	-10.1

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2010年7月から2015年6月の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率は設定から1年を経過していないため、該当事項はありません。

<各資産クラスの指数>

日本株: 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債: JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

(毎月決算型)

当ファンドの組入資産の内容

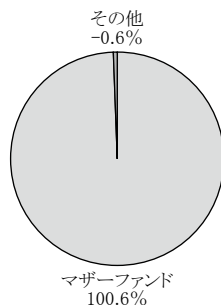
○組入ファンド

(組入銘柄数: 1銘柄)

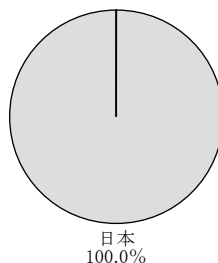
ファンド名	第4期末 2015年7月10日
イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	100.6%

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

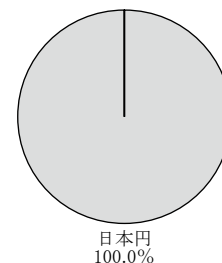
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 資産別配分において、未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第1期末 2015年4月10日	第2期末 2015年5月11日	第3期末 2015年6月10日	第4期末 2015年7月10日
純資産総額	600,412,364円	8,249,283,934円	17,378,456,772円	19,283,291,314円
受益権総口数	586,250,000口	8,200,162,508口	16,618,366,672口	18,646,902,644口
1万口当たり基準価額	10,242円	10,060円	10,457円	10,341円

* 当作成期中(第1期～第4期)において追加設定元本額は18,183,596,095円、一部解約元本額は122,943,451円です。

ファンドデータ

(年2回決算型)

当ファンドの組入資産の内容

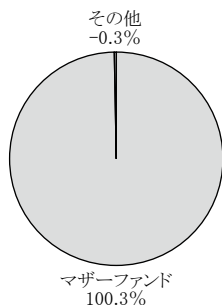
○組入ファンド

(組入銘柄数: 1銘柄)

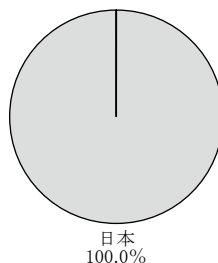
ファンド名	第1期末 2015年7月10日
イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド	100.3%

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

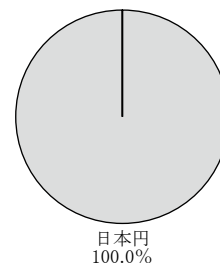
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 資産別配分において、未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第1期末 2015年7月10日
純資産総額	5,933,103,243円
受益権総口数	5,798,595,659口
1万口当たり基準価額	10,232円

* 当期中において追加設定元本額は5,819,231,276円、一部解約元本額は21,820,917円です。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング・インド公益インフラ債券マザーファンド

最初の決算日が到来していないため、記載すべき事項はありません。

指数に関して

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- ・ 東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- ・ MSCI指数(MSCIコクサイ・インデックス、MSCIエマージング・マーケット・インデックス)はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ NOMURA-BPIは、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。
- ・ シティ世界国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権は、Citigroup Index LLCに帰属します。
- ・ JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)はJ.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。